

## 岡本西小学校「哲学対話」 実施報告

テーマ：お手伝いは、誰のため？

開催日：2019年12月14日（土）

開催内容：

宇都宮市立岡本西小学校の児童たちを対象に、宇都宮キャンパス総合基礎科目講師 江口建が「哲学対話」を行いました。この企画は、岡本西小学校の「放課後子ども教室みやっこ」の活動の一環として地域の公民館を借りて行われました。今回参加したのは、4年生～6年生の児童約10人に加え、幼児1人と、保護者を含む大人3人です。

今回は「お手伝いは、誰のため？」というテーマで対話を行いました。江口講師が「哲学対話」とそのルールについて簡単に説明したあと、アイスブレイクとして児童たちに「お手伝い」に関する小芝居を演じてもらいました。まず、2人の男子児童にそれぞれ次のような指示を出します。

A：お父さんになったつもりで、相手の人にお手伝いを頼んでください。なんでもいいです。もしかすると断られるかもしれませんが、なんとかしてお手伝いをさせてください。

B：相手の人はあなたのお父さんです。お手伝いを頼まれたら全力で断ってください。引き受けてもよさそうだと思えたら引き受けてください。

2人には自由に演じてもらいました。「**お皿洗いをしてくれ**」というお願いに対して「嫌だ」と言われ、そこでもう諦めてしまいました。次の言葉が出てきません。

今度は女子児童2人に「お父さん」を「お母さん」に変えて、同じように小芝居を演じてもらいました。「**お風呂洗いをしてちょうだい**」というお願いに対して「嫌だ」と断られると、「**飴をあげる**」と言いました。それでも「嫌だ」と断られるので、今度は「**ゲームをあげる**」と言いました。それでも「嫌だ」と断られるので、その子が抱いていたぬいぐるみを「**没収する**」と言いました。しかし、相手は一筋縄ではいきません。「嫌だ」と断り続けます。それを見ていた別の児童が、お母さん役の人に耳打ちをし「**お金をあげる**」と言いました。少し迷っているようです。しばしの沈黙のあと、やはり「嫌だ」と断ります。「お金」と言われた時点で迷った様子が見られました。最後に「**晩ご飯抜き**」と言うと、お手伝いを引き受けました。

この何気ない寸劇からいくつかのことが分かります。

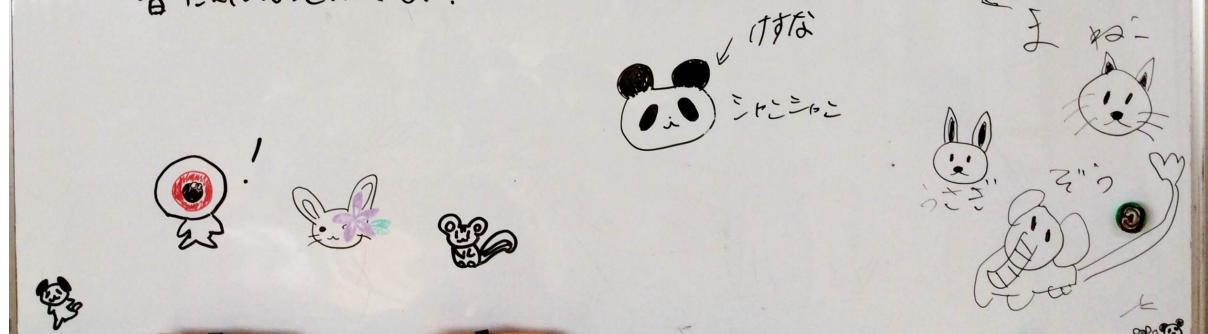
1. お手伝いをさせるために、交換条件を持ち出したこと。
2. 交換条件が、物欲を刺激するものだったこと。
3. だんだん高価になっていったこと（飴→ゲーム→お金）。
4. 「お金」を持ち出された時点で、少し迷ったこと。
5. 「晩ご飯抜き」が、子どもにとっては案外、深刻であること。

# 哲学対話 ~おてづいはいは必要??~

お風呂洗<sup>ヤダ</sup>い<sup>て</sup> → あめあげ<sup>る</sup> → ケー<sup>ン</sup>あげ<sup>る</sup>  
→ ー<sup>さん</sup>没収<sup>ぼしゅう</sup> → お金あげ<sup>る</sup> → <sup>ちっと送る</sup>

暇<sup>ひま</sup>はぬ<sup>ぬ</sup>王<sup>おう</sup> → いいよ!! (暇<sup>ひま</sup>はぬ<sup>ぬ</sup>王<sup>おう</sup>...)

・普通<sup>ふつう</sup>はもっと早くOK.



なんとかしてお手伝いをさせようと思ったとき、人はしばしば「交換条件」を持ち出し、しかも「物」で誘うことを思いつく、ということが分かります。

さて、こんなに交換条件を出されなければ、お手伝いを「したい」とは思えないのでしょうか。お手伝いは、無賃ではする価値がないものなのでしょうか？

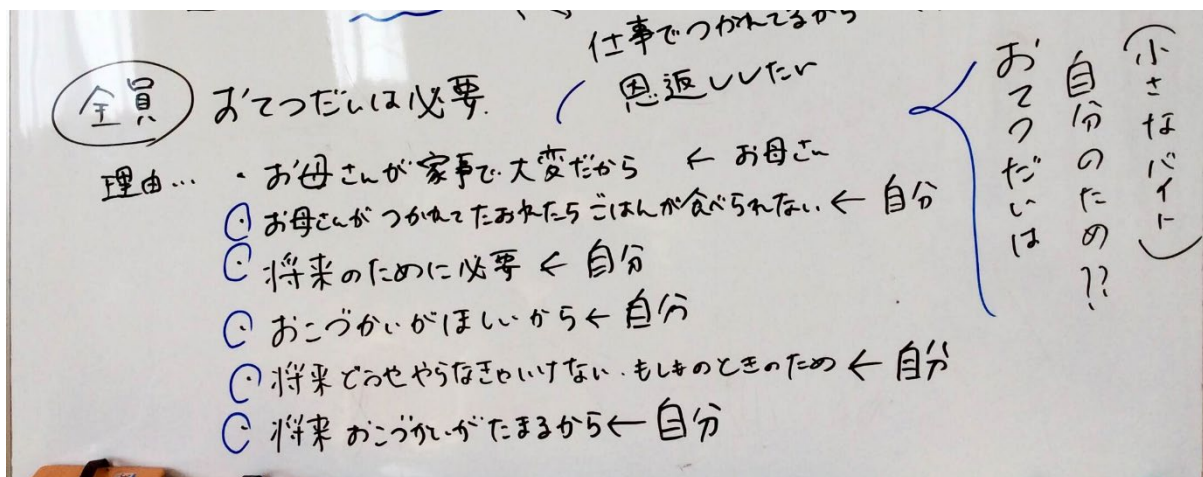
江口講師が「みなさんは、お手伝いは必要だと思いますか？」と尋ねると、全員が「必要」と答えました。その理由も答えてもらいました。

- ① お母さんが家事で大変だから。
- ② お母さんが疲れて倒れたらご飯が食べられない。
- ③ 将来のために必要。
- ④ 将来どうせやらなきゃいけない。もしものときに役立つ。
- ⑤ お小遣いが欲しいから。
- ⑥ お小遣いが貯まるから (小さなアルバイト)。

①は「お母さん」のためです。②～⑥は「自分」のためです。

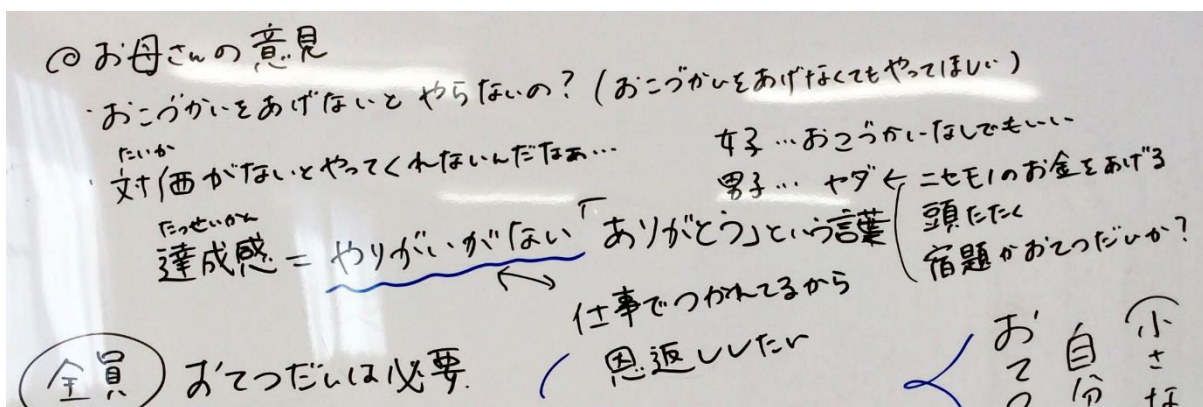
ここで疑問が生じます。「お手伝い」は、はたして誰のためにやるのでしょうか。自分のためでしょうか。

ある児童が「お手伝いは小さなアルバイト」と意見を述べます。アルバイトをするのは自分のためです (お金が欲しいから)。ならば、お手伝いは自分のため (お金を稼ぐため) にやるものではないでしょうか。



江口講師が保護者の意見を聞いたところ、ある保護者が「対価がないとやってくれない。本音を言えば、お小遣いをあげなくても自発的にやってほしい」と苦笑いを浮かべながら述べました。その意見を聞いて、女子児童たちは「お小遣いなしでもいい」と言います。それに対し、男子児童からは「やっぱりお小遣いは欲しい」という声があがり「ニセモノのお金をあげてごまかす」「言うことを聞かなければ頭を叩く」「宿題をやらせる」など、さまざまな意見が出ましたが、いずれにせよ、自発的にお手伝いをするという雰囲気ではありません。

その中で、ある女子児童から「達成感」という言葉が出ました。お小遣いなくても達成感があれば良いとのこと。それを受けて男子児童は「お金をもらわないとやりがいがない」と述べました。確かにやりがいは大事です。しかし、それは「お金」でなければならないのでしょうか。ある女子児童が、「ありがとうと言われると嬉しい」と述べました。感謝の言葉が「やりがい」になることもある、ということが分かりました。別の女子児童は「お母さんは毎日お仕事で疲れているから恩返しをしたい」とも述べてくれました。だんだん「物」とは違う「自に見えない価値」について児童たちが意見を出し始めました。



・おてっだいはやて当然?  
 ー理想としては「何かある?」と望んでほしい。でも強制するものではない

達成感・お礼の言葉・恩返し・・・いずれも物欲とは違う種類のものです。ここで江口講師が、再度問いかけました。お手伝いはいったい誰のためにやるものなのか。



お母さんが過労で倒れて、ご飯を作ってくれる人がいなくなれば困るのは自分です。お小遣いを貯めるのも自分のためです。「将来のために必要」という意見も、自分（＝将来の自分）のためです。達成感も自分のためです。一方で「恩返し」は、自分のためではありません。感謝の言葉も、「ありがとう」と言われて嬉しいのは自分なので、自分のためとも言えるのですが最初からお礼の言葉が目的ではなく、誰か他人のためにやった結果として得られる感情という意味では、その行為の目的は自分ではないと考えられます。

それではどちらが本当のお手伝いなのでしょう。どちらもお手伝いでしょうか。

児童たちが考え込む様子が見られました。江口講師がさらに問いかけます。「例えば、学校の先生はお給料という形でお金をもらって授業を行っています。では、学校の先生が授業をするのはお手伝いでしょうか」

児童たちは「仕事」と答えました。すかさず江口講師が問いかけます。「なんで？だって、みなさんは「お小遣いをもらってお手伝いをやっている」と言いました。学校の先生はお金をもらって授業をしている。みなさんはお小遣いをもらってお皿洗いやお風呂掃除をしている。だったら、どちらも一緒ではないか」

「難しくなってきた・・・」と児童が呟きました。

「みなさんがやっていることがお手伝いなら、学校の先生がやっていることもお手伝いではないのか。もしお手伝いならば、みなさんはお礼を言わないといけないのではないか。授業が終わったあとに『授業をしてくれてありがとうございますございました』って言っていますか？」

「言ってない」「どうして？」「仕事だから」さまざま  
な声があがります。

「でも、みなさんと同じことをしているだけだよ」  
いよいよ児童たちの頭がこんがらかってきたようです。学校の先生は、はたして「お手伝い」として授業をしているのか。それとも「仕事」なのか。もしも学校の授業が「仕事」であるならば、どうして子どもたちがお小遣いをもらってお手伝いをした場合は仕事ではないのか。それは、もはや仕事ではないのか。仕事であるならば、それはお手伝いをしていることには  
ならないのではないか。



これが「哲学的に考える」ということです。あたりまえだと思っていたことが、じつは「あたりまえ」ではなく、一般的に〈普通のこと〉と知っていることが、実は〈普通のこと〉ではない。普段、深く考えないことについて改めてじっくりと考えてみる。その際、答えが出なくても構わない。むしろ、分からないことが増えるのが哲学であり、頭がぐちゃぐちゃになったら大成功。哲学とはそういうものだ、ということを実感した瞬間でした。

2018年度から小学校で「道徳」の授業が「特別の教科」として導入され、2019年度からは中学校でも同様の取り組みが始まりました。文部科学省の方針によって、「考え、議論する」道徳の授

業が奨励され、今後、ますます「言語運用能力」と「対話力」が求められる時代になります。子どもたちが、少しでも多く世の中のことを深く考え、考えを言葉にし、お互いの意見を聞き合う機会が増えることを願っています。

哲学対話 ~ おてっぺいはい必要?? ~

おてっぺいとお仕事はどうちがうの? 大阪鳥取

仕事はお金をもらうけど、おてっぺいはいもらわないことある。お金ももらっておてっぺいはい...  
 自分を育ててくれたお母さんとお父さんの恩返し。  
 学校の先生はおてっぺいしている? お金ももらってるから仕事。  
 お金をもらってお風呂洗いたいりするのち仕事?  
 おこづかいをもらえうれしいも味わてほしい(や)がい。達成感) ← おてっぺいはいは別のところも。

家族を組むとして考え、関係をスムーズにするもの。(お金あげて仕事)  
 仕事はやってあたり前。お礼はいらばい。

お母さんが家事で大変だから ← お母さん  
 ○ お母さんがつかれたお母さんごはんが食べられない ← 自分  
 ○ 将来のために必要 ← 自分  
 ○ おこづかいがほしいから ← 自分  
 ○ 将来のせやらなさいけない。もしのときのため ← 自分  
 ○ 将来 おこづかいがたまるから ← 自分

おてっぺいはいは 自分  
 小女子の日記  
 大元 良渡  
 沖 綾川  
 神奈川 徳島 C+D=00 C+D=00  
 茨城山形 神奈川